

●演習ワークシート

実習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

症例：68歳，男性

既往歴：高血圧，糖尿病，脂質異常症

現病歴：38℃の発熱と右上腹部痛が出現，意識の状態も悪化してきたため救急要請した

来院時身体所見：

身長 165cm，体重 50kg

体温	血圧	脈拍数	呼吸数	SpO ₂
35.2℃	78/42mmHg	68 回/分	28 回/分	95% (酸素 3L/分)

意識レベル：JCS2

眼瞼結膜：貧血なし，眼球結膜：黄染

頸部リンパ節：触知せず，項部硬直：なし

心音：心雑音なし，呼吸音：肺底部で軽い crackle

腹部：緊満，蠕動音低下，全体に軽度圧痛，反跳痛・筋性防御なし，
肋骨脊柱角叩打痛なし

下肢：浮腫なし

血液検査

WBC	14400 / μ L	TP	5.2 g/dL	Na	135 mEq/L
RBC	494 $\times$ 104/ μ L	Alb	2.1 g/dL	K	4.2 mEq/L
Hb	13.6 /dL	T-Bil	5.1 mg/dL	Cl	98 mEq/L
Ht	40.1 %	AST	1592 IU/L	Glu	176 mg/dL
Plt	1.7 $\times$ 104/ μ L	ALT	799 IU/L	CRP	11.8 mg/dL
APTT	67.8 秒 (24-36)	LDH	6942 IU/L	pH	7.288
PT-INR	3.76	Amy	289 U/L		(正常7.35~7.45)
ATⅢ	31% (80-120)	BUN	101 mg/dL	PaCO ₂	23.3 mmHg
FDP	44.6 μ g/mL (4以下)	Cr	5.9 mg/dL	PaO ₂	80.2 mmHg
Fib	32mg/dL (150-400)	CPK	1986 U/L	HCO ₃ ⁻	13.4 mEq/L
D-イマー	17.1 μ g/mL (1未満)				(正常値22~28mEq/L)
					(O ₂ 3L/分)

CT 検査

- ⑩ CT を撮影したところ、胆のう腫大、総胆管の拡張を認め、急性胆のう炎による敗血症性ショックと診断し、入院
- ⑩ 胆のうドレナージを施行、膿状の胆汁を認めた
- ⑩ 急性胆のう炎に対して、抗菌薬を開始
- ⑩ 敗血症性ショックのためノルアドレナリンの持続点滴を開始、病状は徐々に安定してきた



演習課題 1

下記の状態にある場合、手順書に従って持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整を行うことができるかを考察してください。

- ⑩ 意識レベルは軽度低下（JCS2）
- ⑩ 呼吸回数 35 回/分、息苦しい
- ⑩ 収縮期血圧 75mmHg
- ⑩ 尿量 20mL/時

演習課題 2

下記の状態にある場合、手順書に従って持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整を行うことができるかを考察してください。

- ⑩ 意識レベルは清明
- ⑩ 胸痛、呼吸困難なし
- ⑩ 収縮期血圧 86mmHg
- ⑩ 尿量 40mL/時

演習課題 3

ノルアドレナリンの持続点滴でコントロールする場合，手順書に従った持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整の内容（特定行為の内容）を考えてください。

演習課題 4

下記の特定行為の実施・患者状態にある場合，手順書に従った持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整後として，次にどうすべきか考察してください。

ノルアドレナリン[®] 5A + 生食 45mL 0.01γ = 0.3mL/時 （体重 50kg）
 0.01μg/kg/分（γ）ずつ増減
 sBP 90～120mmHg にコントロール

- ⑩ ノルアドレナリンを 0.01γ 増量
- ⑩ 収縮期血圧 98mmHg まで上昇
- ⑩ 意識清明
- ⑩ 胸痛，呼吸困難なし
- ⑩ 腹痛なし

演習課題 5

下記の状態にある場合、手順書に従った持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整を行うことができるかを考察してください。

- ⑩ 意識レベルは清明
- ⑩ 呼吸回数 20 回/分, 息苦しさなし
- ⑩ 収縮期血圧 160mmHg
- ⑩ 血圧以外のバイタルサインの変化なし
- ⑩ 尿量 100mL/時

演習課題 6

ノルアドレナリンの持続点滴でコントロールする場合、手順書に従った持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整の内容（特定行為の内容）を考えてください。

演習課題 7

下記の特定行為の実施・患者状態にある場合、手順書に従った持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整後として、次にどうすべきかを考察してください。

ノルアドレナリン® 5A + 生食 45mL 0.01 γ = 0.3mL/時 （体重 50kg）
 0.01 μ g/kg/分（ γ ）ずつ増減
 sBP 90～120mmHg にコントロール

- ⑩ ノルアドレナリンを 0.01 γ 減量
- ⑩ 収縮期血圧 110mmHg に安定
- ⑩ 意識清明, 呼吸苦なし, 腹痛なし
- ⑩ バイタルサインの悪化なし